

(別紙)

成果の説明書

(氏名) 関根 雅則	(学部) 経済学部
<p>1 重要事項</p> <p>【研究面】</p> <p>第1に、平成25年度まで続けてきたオープン・イノベーションの理論に関わる研究をベースに、平成26年度は、実際にオープン・イノベーションに積極的に取り組んでいる企業の事例収集・調査を行った。オープン・イノベーションは、大きく①インバウンド型オープン・イノベーション、②アウトバウンド型オープン・イノベーション、③カップルド型オープン・イノベーションの3タイプに類型化できる。これらの中で、①と③については、オープン・イノベーションという概念が提示される以前より、企業提携やM&Aといった観点からそれらの有効性について研究が行われてきた。しかし、②については、その有効性について十分な議論がなされてきたとは言い難い。つまり、自社の経営資源、特に知識や技術を他社ないし他機関に開放することが、結果的に当該企業にとってどのようなメリットがあるのかについては検討の余地が大きい。そこで、特に②アウトバウンド型オープン・イノベーションを行っている企業の事例を収集・調査することにより、当該企業がいかなる目的や意図、真意を持っているのかについて検討した。</p> <p>第2に、産業研究所の「デフレ・プロジェクト(通称)」のメンバーになっていたため、デフレーション現象と経営戦略の関係に関する研究を行った。デフレが継続的に物価下落を引き起こす現象であるとするならば、企業にとっての戦略の定石は、コストを削減することにより低価格を実現することである。とはいえ、景気は変動するという前提に立てば、品質を伴わない低価格は、長期的には顧客に受け入れられない。そこで、デフレと経営戦略の関係に関わる先行研究や、製品・サービスの価格と品質の関係に関わる先行研究を通じて、結局のところ「良いものをより安く」というスタンスが、デフレやインフレといった景気変動に関わらず企業の競争戦略上重要であることを明らかにした。その成果は、平成26年度発行の産業研究所叢書『デフレーションの経済と歴史』の中で、「第9章 景気変動と経営戦略」というタイトルで掲載された。</p> <p>【教育面】</p> <p>◆大学院</p> <p>演習Ⅱでは、修士論文作成の指導を行った。修士論文のタイトルは「中国企業のM&Aによる競争戦略」。そこで、なぜ新興国企業が先進国企業を買収することにより競争優位に立てるのかを明らかにするために、学生と多くの議論を交わした。また、論文における先行研究、仮説設定、事例研究、仮説検証の各段階において適宜指導を行った。当該学生は、論文審査を通過し修士の学位(経営学)を取得することができた。</p> <p>演習Ⅰでは、P.F.ドラッカーの著作を通じて、イノベーションおよび企業家精神に関わる知識の深化を図った。イノベーションは経営戦略を理解する上での前提的概念だからである。</p> <p>講義では、他分野を専攻する受講者も複数存在したため、経営戦略の基礎に関わる知識の習得を図った。</p> <p>◆学部</p> <p>演習Ⅱでは卒業論文作成指導、演習Ⅰではインナー大会出場のための論文作成指導、基礎演習では経営学の基礎を修得させるための指導を行った。また、外部機関と連携して、実際に企業を立ち上げたことがある企業家にゼミ生が直接インタビューする機会を設けた。</p> <p>講義では、ベンチャービジネスや経営戦略に関し、受講生の理解を容易にすべく実存</p>	

<p>企業の事例を多用した。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
<p>2 その他の事項</p> <p>①JA 栃木中央会からの依頼により、「JA 職員長期研修会」において、「イノベーションの概念とマネジメント」というテーマで講義した。</p> <p>②JA 群馬中央会からの依頼により、「JA 職員長期研修会」において、「経営戦略」および「イノベーションの概念とマネジメント」というテーマで2度にわたり講義した。</p> <p>③群馬県産業経済部産業政策課からの依頼により、「群馬県優良企業表彰」の審査委員を務めた。</p> <p>④(株)ワークエントリーが主催した「群馬の起業家講演会」において特別ゲストを務めた。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
<p>3 次年度以降の計画・抱負</p> <p>研究面では、引き続きオープン・イノベーション、特にアウトバウンド型オープン・イノベーションについて、実存企業の事例を調査・分析したい。</p> <p>教育面では、学生が実存企業や企業家に接する機会を増やし、イノベーションや経営戦略に対する関心を高めることにより知識の深化・高度化を図りたい。</p> <p>その他については、今年度も JA 群馬中央会および JA 栃木中央会から講師の依頼を、また、群馬県産業経済部産業政策課から「群馬県優良企業表彰」審査委員の依頼を受けているので、幅広く地域貢献できるよう努めたい。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>